

単元名 3 言葉と向き合う 一言の力

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解することができる。
 (2) 言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合うことができる。
 (3) 進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとする。

標準的な展開例

11210115_001

【準備等】類語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 文章を要約して、内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを確認する。 ★筆者の言葉に対する考えを捉え、志村ふくみさんとのエピソードの意味を考えよう。 ○「美しい言葉」についてのイメージや具体例を挙げ、言葉に対する自分の考えを確認する。 ○全文を通読する。 ○注意する語句・新出漢字を調べる。 ○文章を三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。 <p>2 筆者の考え方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★筆者の考え方について話し合おう。 ○「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。 ○美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをまとめる。 ○グループでそれぞれ考えた内容について話し合う。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標」(p. 70)を確認する。 ・生徒が「美しい言葉」に対するイメージや考えがもてるようにする。 【評】筆者の言葉に対する考え方をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・200字程度に要約できるようにマス目用紙を用意する。 【評】文章を要約する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・意外性と分かりやすさの点から、比喩の効果を考えさせるとよい。 ・自分の知識や経験と結び付けて考えさせる。 【評】筆者の考えに対する自分の考えを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分の考えを広げたり深めたりするために、今後、本や文章をどのように読んでいきたいかを考えさせる。

【 備 考 】

短歌は、今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と、新しい表現やものの見方が融合して、新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれながら、豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また、短歌の学習を通して、生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会うだろう。その学習も生かしながら、自分たちの経験や思いなどをより明確に、相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また、類語辞典等を活用しながら、和語の働きや差異などにも注目させたい。